

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(有) セルフビーイング	代表者	松崎 泉	法人・事業所の特徴	保土ヶ谷区境木町の住宅地に開所して、4月には7年目を迎えます。事業所の2つの理念である、利用者の歴史を大切に、気持ちに沿ったサポートをすること、利用者ご家族の立場にたって物事を考え、その人らしく生き活きと過ごせるようにサポートすることをスタッフ全員が心がけ、家庭と変わらない環境で、居心地の良い場となるように日々努めています。スタッフの半数以上が介護福祉士の資格を持っていますが、様々な状況のご利用者に対応するため、介護技術、接遇技術の向上に努めています。
事業所名	小規模多機しおり境木	管理者	松崎 泉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	1人	人	2人	1人	0人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の時間を十分に取、事業所評価をしてもらう。	会議での時間は限りがあるが、きちんとしおりの状況をみて、自己評価をしてもらっている。	スタッフ全員で改善しようとして取り組んでいる	きちんと自己評価ができるよう積極的に取り組み、会議で進捗状況を確認していく
B. 事業所のしつらえ・環境	掲示板下の花壇にボランティアさんの協力を得て、利用されている人も一緒につくっていく。	掲示板の花壇は時季によって植え替えられボランティアさんを中心に作っていくことができた。	しおりは温かみのある居心地の良い場所である。	地域の方が事業所の様子が変わりやすくするように、しおり便りやイベントの情報を掲示する。
C. 事業所と地域のかかわり	包括支援センターや自治会等との連携をもち、引き続き地域のイベントに参加していく	樹林祭り・夏祭り・れもんカフェなど、様々なイベントに参加することができた。	地域のイベントに参加するのでしおりの名前は知られているが、住宅街の中にあるので場所がわからない人も多い。	しおりバザーでは地域の方にもボランティアで参加してもらい、沢山の方がしおりに来てもらえるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	これからも馴染みの場に出向いていき地域との関係を深め様々な方との連携をもつ	積極的に外出し、商店街やスーパーなどに行き、地域の方と連携をもつことができた。	外に出向いてくれるので、外で利用者の方と話すことができている。	積極的に地域との関わりを持ち、ご近所の心配な方に事業所を頼りにしてもらう。

E. 運営推進会議を活かした取組み	困難事例・成功事例等を積極的に会議で話し事業所の理解を深めてもらう	積極的に事例を話し、メンバーの方にしおりの活動を深めてもらうことができた。	毎回、活気がありいろいろな意見を誠意をもって、また、情報を正しく伝えてくれる。	引き続き会議では、事例検討を多くし、メンバーみんなで共有して理解を深める。
F. 事業所の防災・災害対策	消防署や他事業所とも情報を共有し、施設や地域の防災、災害状況を理解する。	保土ヶ谷区の高齢施設の消防会議に参加することができた。その際に、他施設の情報を得ることができた。	事業所の訓練には参加する。備えや補充も含め、訓練をするとうよい。	避難訓練の日程を回覧板や掲示板で知らせ、多くの人の参加を募る